

領域名：3 (8, 11 と共同開催)

シンポジウム主題：フラストレーションとスピン液体

提案者（所属）：谷口年史（阪大院理）

シンポジウムプログラム：

1. カゴメ格子上的スピン液体（広井善二：東大物性研）
2. 三角格子・パイロクロア格子量子スピン反強磁性体の新奇フラストレート磁性（前川覚：京大人環）
3. 強磁場 ESR から見たカゴメ格子反強磁性体のスピンドイナミクス（太田仁：神戸大分子フォトセ）
4. フラストレート磁性体の中性子散乱（松田雅昌：原子力機構）
5. 量子スピン液体の理論の現状と今後の課題（今田正俊：東大工理論）
6. 有機三角格子系におけるスピン液体（鹿野田一司：東大工物性・ナノ）
7. 三角格子ハイセンベルグ反強磁性体のボルテックス秩序化とスピンジエル（川村光：阪大理）
8. 三角格子反強磁性体  $\text{NiGa}_2\text{S}_4$  における特異な二次元磁性とスピンドイナミクス（南部雄亮：Johns Hopkins 大）

報告：

近年の物質合成技術の進歩による新物質の発見、理論研究の進展から、フラストレーションの効果による大きな揺らぎを伴った新しい状態として「スピン液体」が、各方面から大きな注目を集めている。関係分野の研究者が一同に会してこの分野の研究の現状を整理し、今後の研究方向を議論すべき時期と考え、本シンポジウムは企画された。シンポジウムは9月25日午前RE会場で行われ、定員250名の部屋が満員となり常時立ち見が出る盛況であった。講演終了後の質疑応答でも活発な議論が行われ、今後の研究方向を考える上でも非常に有意義なシンポジウムとなった。